

タウン情報③⑥

法真山理性寺

井の頭線西永福北側、永福三丁目五六番にある法華宗陣門派・法真山理性寺は、承応三年（一六五四）に旗本大久保越中守忠辰、同甚兵衛忠昌兄弟が父の菩提を弔うため、四谷大木戸に創建した寺で大正三年に現在地に移ってきた。

商店街より朱塗りの山門を入ると、正面に本堂、左手に大黒堂、庫裡があり、右手に浄行菩薩石像等が安置されてある。

大黒堂には、日蓮聖人が自ら彫られたという「火伏せの大黒」が安置されている。墓地には、お万の方、伊庭可笑、杵屋三五郎、安藤文澤、林恒齋、国鉄総裁を勤めた加賀山之雄、同じく十河信二等の名墓がある。

森 泰樹著 杉並風土記より抜粋



杵屋三五郎の線塚

タウン情報③⑦

堀之内お祖師様

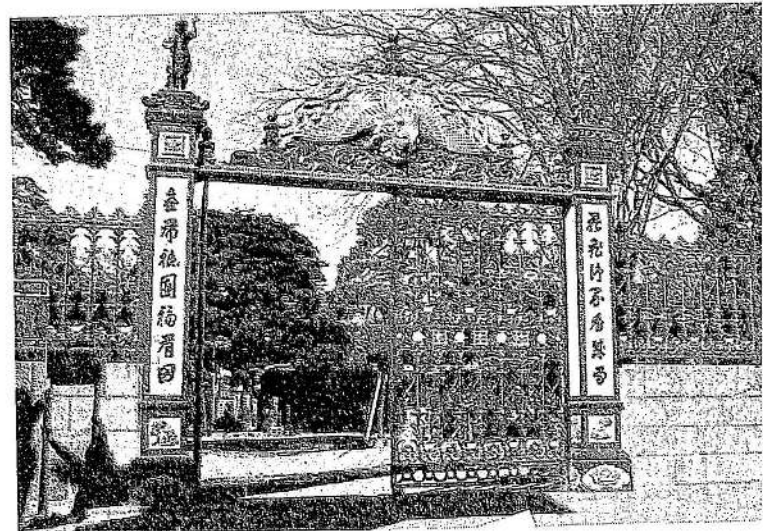
和田二丁目歩道橋の環七通り西側に「除巳祖師堀の内妙法寺」と書かれた道しるべの中に入ると、二階建の立派な櫻門、門内には祖師堂、本堂額堂、鐘櫻、五重塔、庫裡等の広大な建物が軒を連ねている。

当初は日円という尼さんの草庵でしたが、寛永九年に子の日蓮聖人が母の菩提を弔う為に日円山妙法寺を創立した。日蓮上人の木像をお祀りした。この木像は、日蓮上人四二才の姿であり、四二才の尼除けに始まり、凡ゆる災難除けに靈験があると広く信ぜられ、江戸時代の書物に境内は足の踏み場もない程、参詣んで雑踏していた。また、参道の商店も大いに繁盛していた。

鉄門は明治十一年頃製作され、和洋折衷様式で非常に珍しく国宝に指定されている。



妙法寺の仁王門（昭和四十九年一月十五日撮影）



国宝妙法寺鉄門（明治十二年建造）
設計 英国人コンドル氏